

- 福島県「浜通り」地域の新たな産業基盤の構築を目指し、イノベーション・コースト構想研究会を開催(平成26年1月～6月)。
- 研究会は、赤羽前原子力災害現地対策本部本部長(前経済産業副大臣)を座長に地元を含む産学官の有識者で構成。産業基盤のみならず、今後のまちづくりの在り方を広く検討(平成26年6月23日報告書とりまとめ)。

1. 構想のコンセプト

- 1. イノベーションによる産業基盤の構築**
⇒浜通り地域で将来的な発展の可能性を持つ産業の一端を明示
- 2. 帰還住民と新住民による広域のまちづくり**
⇒帰還住民と新たに移り住む研究者等が一体となって地域活性化を図る必要性を明示
- 3. 地域の再生モデル**
⇒国内各地域に共通する高齢化・過疎化等の課題に対する再生のモデルを明示

3. 構想実現に向けた方策

○構想の主要プロジェクト具体化に当たって解決が必要な3つの課題を明示

- 1. 戦略的工工程と体制の構築**
⇒「2・3年の短期」、「2020年までの中期」、「それ以降の長期」の工程表を策定
- 2. 広域的な視点でのまちづくり**
⇒各拠点の配置と連携、拠点整備とインフラ整備の連携、広域行政連携、特区制度の活用等の必要性を明示
- 3. 中長期の取組体制の確立**

2. 構想の主要プロジェクト

- 1. 国際廃炉研究開発拠点(放射性物質分析・研究施設)**
⇒廃炉研究の中核施設として、世界の研究者が集まり研究を実施
- 2. ロボット開発・実証拠点**
 - (1)モックアップ試験施設(屋内ロボット)
⇒廃炉作業等屋内を想定したロボットの試験施設(楡葉町に建設中)
 - (2)福島ロボットテストフィールド(屋外ロボット)
⇒災害対応ロボットの研究・実証施設。ロボット国際競技会も開催
- 3. 国際産学連携拠点**
⇒国内外の機関が結集し、廃炉、環境修復、農林水産等の教育・研究を実施。
内外原子力技術者の研修も実施
⇒原子力災害の教訓を世界に情報発信
- 4. 新たな産業集積**
 - (1)スマート・エコパーク(有用金属や被災地の廃棄物をリサイクル)
 - (2)エネルギー関連産業の集積
 - (3)農林水産プロジェクト(スマート農業、水産研究施設の強化等)
- 5. インフラ整備**
 - (1)交通インフラ(JR常磐線の全線開通、主要道の整備等)
 - (2)産業・生活インフラ(生産・物流施設の整備、中核病院の整備)



スマート・エコパークの概要

1. 概要

- 福島県において、リサイクル事業者や研究機関、自治体、国等が参画した、「ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会」を設置。先進的な個別リサイクル事業の早期事業化に向けた支援や人材育成等を実施。
- 本研究会を通じて、県内産業基盤を強化するとともに、新たなリサイクル事業を生み出していくことで、浜通り地域を中心に環境・リサイクル産業の集積を図り、今後の持続可能な社会づくりを先導できる地域を目指す。

- 炭素繊維再資源化事業
- 太陽光設備・バッテリー再資源化事業
- 石炭灰混合材料製造事業
- 小型家電リサイクル事業 etc...

2. スケジュール

- (1)平成27年度(2015年度)、研究会を立ち上げ 【8月10日 設立総会@福島市】
- (2)新たなリサイクル事業の早期事業化を実現(平成28年度(2016年度)以降)。
- (3)平成32年(2020年)に向けて環境・リサイクル産業の集積を目指す。

(1)平成27年度(2015年度)、研究会を立ち上げ【済】



(2)新たなリサイクル事業の早期事業化を実現(平成28年度(2016年度)以降)



(3)環境・リサイクル産業の集積(平成32年(2020年)に向けて)

